

# 880 億ドルの価値がある世界最大の銅山を中国が確保！

— 「現地ルポ 中国の狡猾資源戦略を暴く」 —

戦乱が激しさを増すアフガニスタンに、総額 1 兆ドルとも推定される資源が眠っている――。圧倒的な資金力で真っ先にその利権を獲得したのは、着々と資源戦略を展開する中国だった！ 緑を基調とした迷彩服に身を包んだ男が門から出てきて、我々の前に立ちはだかった。アフガニスタンには、チンギス・ハーン時代に侵攻したモンゴル人の末裔である「ハザラ人」という民族がいる。顔つきは日本人に近く、この男もそんな顔をしていたが、ハザラ人が話す公用語ダリ語も英語も通じない。彼は中国人なのだ。中国語の看板や旗などは何もないが、この門の向こう側で中国人労働者約 100 人が生活している。首都カブールの南東ロガール州にあるアイナク銅山。1100 万 t の銅を埋蔵し、推定 880 億ドルの価値があるとされる世界最大規模の銅山だ。'74 年にソ連が発見し、'08 年から中国国営企業「中国冶金科工集团公司」を主とした中国の企業共同体（JV）が莫大な資金をかけて開発準備を進めているという。記者はその実態を探るべく、アフガニスタンを訪れた。親タリバンで現政権に参加しているイスラム党の関係者 2 人に、警察官の運転手と AK - 47 カラシニコ

フ銃で武装したもう一人の警察官、密かにタリバン関係者一人、という態勢を組んで車で現地へ向かった。 ロガール州は旧タリバン政権を構成したパシトゥン人の住む地域で、今もタリバン支持者が多い。'08年には「ニューヨーク・タイムズ」の記者が州内で拉致されている。オバマ政権によってアフガン駐留米軍は3万5000人規模になったが、昨年の米兵死者数499人は'01年の開戦以来、最悪の数字。現在、全土の6~7割はタリバンの支配下にあるとみられている。ちなみにこの銅山一帯には「国際テロ組織アルカイダ」の基地があったとされ、米軍の空爆も受けている。中国人はそうした”危険な”場所にも住み着いて資源獲得に励んでいるわけだ。



アフガニスタン政府が入札準備を進めているハジガク鉄鉱山の周辺で羊を飼う  
村人 **タリバン支配下の”危険な”場所で鉱山開発** よく舗装された幹線道路を  
1時間ほど走り、未舗装の脇道に入って土壁の家が散在する村を通り抜ける

と、数キロ先の山まで平坦な土漠が広がっていた。一本道を進むとすぐに警察の検問所。この先は、警察を管轄する内務省と鉱山省の許可がなければ立ち入れない。銅山の周囲は、特別に採用された 1500 人の武装警察官が常時警備。65 か所の詰め所が配置されており、三重に張り巡らせたフェンスで囲まれている。アフガン政府は、他の鉱山の入札参加を呼びこもうと「安全確保は万全である」とアピールしているが、とんでもない。それだけの警備が必要ということだ。警察官の賃金は中国企業が支給している。つまり、外国政府の支配下にある武装集団が、アフガン政府の中に存在している状態だ。このことは在カブール米国大使館が「構造的にも政治的にも問題」と懸念を抱いていることが、内部告発サイト「ウィキリークス」が暴露した極秘指定の公電で明らかになっている。汎用機関銃 PKM と警察官を乗せたピックアップトラックと何度かすれ違いながら、山あいの道をさらに 2 か所の検問を抜けて進むと、奥座敷のような盆地状の土地が開ける。その最も奥に位置しているのが中国人の居住区だ。門の前で無線で話していた中国人から、中に入る許可が出た。別の中国人から入念にボディチェックを受ける。撮影は一切禁止で、「すべての撮影機材と携帯電話を門の外の車の中に残して徒歩で入れ」と言われる。数百メートル先には、白い壁に青い三角屋根を載せたコンテナ約 20 棟が、新興住宅地のように整然と並んでいた。一部は、彼らが雇った中国語と英語を話すハ

ザラ人通訳や、地元のエンジニアが宿泊する施設だ。 結局、1時間近くも待たされたあげく、「取材は受けない」と追い返されてしまった。門の外側で山側の写真を撮ろうとしても、羽交い絞めにされ阻止された。彼らは視察を希望する米軍関係者も、外国メディアの取材も受け入れていない。居住区の中で何をしているのかはベールに包まれたままだ。



アイナク銅山に向かう道路で検問を行うアフガニスタン警察。カラシニコフ銃で武装している。警察官の賃金は中国政府が支給、実質は中国政府が雇うガードマンという扱いだ



アイナク銅山の中国企業居住区の前を携帯電話で隠し撮り。迷彩服を着て向こうを向いているのが中国人警備員。退役軍人を警備員として雇うケースが多いようだ 撮影／安田純平 — [現地ルポ] 中国の狡猾資源戦略を暴く【1】

—

## 中国 JV がアフガン過去最大の投資額 30 億ドルでアイナク銅山を落札

— [現地ルポ 中国の狡猾資源戦略を暴く] —

戦乱が激しさを増すアフガニスタンに、総額 1 兆ドルとも推定される資源が眠っている——。圧倒的な資金力で真っ先にその利権を獲得したのは、着々と資源戦略を展開する中国だった！ **880 億ドルの価値がある世界最大の銅山を中国が確保！ アフガン過去最大初期投資 44 億ドル** この中国 JV は'08 年、30 億ドルというアフガン過去最大の投資額でアイナク銅山を落札。約 20 億ドルで入札した米国企業や、ロシア企業などのド肝を抜いた。さらに、カブールにも配電する発電所や労働者のための町、さらに、中国からタジキスタンを経由して銅山まで繋ぐ鉄道も敷くという内容で、初期投資総額は 44 億ドル。毎年 4 億ドルの使用料も払うという大盤振る舞いだ。 '13 年からの採掘開始に向けて、一帯の地雷撤去作業をアフガン企業に委託して進めているほか、ふもとの

村では取り付け道路などの工事も始まっている。中国側は、「銅山開発によって1万人の雇用を生む」と謳っており、労働者には地元の男性が雇われている。地元の村では近年、洪水のため農地が荒れ、農作業の仕事が減っている。道路工事をしていた地元青年の一人は「仕事ができありがたい」と語っていた。中国製の小物の買い付けをしているカブール在住のビジネスマン、ミラ・ジャンさん（28歳）は「利益はどうせ政府の汚職に消えるだけ」と懐疑的だが、アフガン政府の鼻息は荒い。すでにカブール北西にある世界最大規模のハジガク鉄鉱山の入札手続きも進めている。



アイナク銅山のふもとで進められている道路工事。同行した警察官は、車を降りて撮影していた記者に「危ないから早く来い」と神経質になっていた 撮影／安田純平 — 「現地ルポ」中国の狡猾資源戦略を暴く【2】 —

# 賄賂の額が 27 億円！中国が世界最大の銅山に本気になるワケ

— 「現地ルポ 中国の狡猾資源戦略を暴く」 —

戦乱が激しさを増すアフガニスタンに、総額 1 兆ドルとも推定される資源が眠っている――。圧倒的な資金力で真っ先にその利権を獲得したのは、着々と資源戦略を展開する中国だった！ **880 億ドルの価値がある世界最大の銅山を中国が確保！ 賄賂の額が 27 億円！中国が本気になるワケ** 中国企業の落札時、欧米メディアは「気前がよすぎ。いずれ泣きつくに違いない」などと批判していたが、「これには中国の戦略的な意味がある」と独立行政法人「石油天然ガス・鉱物資源機構」企画調査部の廣川満哉氏は強調する。「世界最大の銅消費国である中国が、史上最高値更新を続ける銅を欲しがっているのはもちろんですが、それ以上の意味があります。中国からアフガンの銅山を経由した鉄道は、東へ抜けてパキスタンの鉄道に接続される計画で、いずれインド洋の港まで繋がります。中国は、中東やアフリカの資源をパキスタンから陸路で運べるようになる」 入札時には当時のアフガン鉱山大臣に中国から 3000 万ドル（約 27 億円）の賄賂を渡したとの報道もされており、中国が本気で「獲り」にいった様子がかげえる。 米国は昨年 6 月、古くから開発されてき

た銅山や鉄鉱山だけでなく、アフガニスタンに眠るリチウムなどのレアメタルが「サウジアラビアの石油」級の可能性がある」と発表した。しかし、ほとんど無人飛行機などからの映像で推定したものであり、国防総省が発表したことから「泥沼のアフガンで戦い続けるメリットを示そうとした戦略的な意味しかない」と廣川氏はみているが、相当な量の資源が手つかずで眠っていることは確実。しかし、外務省に退避勧告を出されている日本の企業は傍観するしかない。世界地図に自らの野望を書きこもうとする中国とは、対照的な現状が続いている。 — [現地ルポ] 中国の狡猾資源戦略を暴く【3】 —